

待望の第二弾！
社会活動家としての賀川の活動をたどる

人物書誌大系37

賀川豊彦 II

米沢 和一郎(明治学院大学キリスト教研究所客員研究員)編

A5・690頁 定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8169-1983-X 2006年6月刊行

■近代史における賀川の活動が明らかに

- ・賀川豊彦の著作と、1918年から2005年までの88年間に発表された賀川に関する記事、評論、研究書など3,000件を収録した書誌です。
- ・各文献には要旨・解説を付記、近代の社会問題や人物交流に関わる賀川の活動を知ることができます。また、1930年代の日本では発表できなかった日本軍の中国侵略に対する謝罪の詩「涙に語る」を初めて全文掲載、賀川研究に必携の書です。

■前版と併せ、2冊揃って完結！

- ・前著『人物書誌大系25 賀川豊彦』(1992.7刊)ではキリスト者としての活動に焦点を当てたのに対し、今版は社会思想家・運動家という側面から編集。収録文献は重複せず、2冊揃って完結します。



好評既刊

人物書誌大系25 賀川豊彦 米沢 和一郎 編
 定価18,859円(本体17,961円) A5・470頁 ISBN4-8169-1142-1 1992.7刊

【構成】

- I 著作目録
 図書(補遺分)・著作抄録
 新聞・雑誌執筆稿
 合綴書・序文・跋文・再掲書類
- II 運動・事業資料
 日記一覧(夫人ハル日記・行動記録日記を含む)
 家系図・事業展開表・賀川関係協同組合展開図
- III 参考文献目録
 図書
 新聞・雑誌
- VI 年表
 Chronology of Kagawa

編者プロフィール

米沢和一郎 1968年に明治学院大学社会学部卒業後、東洋大学にて図書館学講座を修了。
 東京経済大学、日本体育大学の図書館員を歴任した後、1986年から2000年まで賀川豊彦記念松沢資料館の研究員として賀川豊彦関連所蔵史料の整理、出版と書誌学的研究に従事。現在は、明治学院大学キリスト教研究所客員研究員として賀川豊彦関連の膨大な史料の検討に精力的に携わっている。

賀川 豊彦 (1888-1960) キリスト教社会運動家、農民運動家、協同組合主義者。世界連邦運動に参加するなど多面的な顔を持つ日本の思想家。兵庫県生まれ。自伝的小説に「死線を超えて」(1920年)がある。

2006.5

●お問い合わせは… **日外アソシエーツ** 営業本部 TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

| | | | |
|-------------|----------------------|---|---|
| ■貴店名 | 注 文 書 | 人物書誌大系37 賀川豊彦 II 定価19,950円(本体19,000円) ISBN4-8169-1983-X | 冊 |
| | | 人物書誌大系25 賀川豊彦 定価18,859円(本体17,961円) ISBN4-8169-1142-1 | 冊 |
| | | ■お名前 | |

1910年代

井鏡 節三

0006 「文化運動」103号 1919(大正8)年5月1日 文化運動社 石田友治発行
 “注目すべき最近の評論” “賀川豊彦氏「主観経済学の体系」『日本及日本人』” 井鏡節三 p43

大杉 栄

0007 「労働運動」 第一次第1号 1919(大正8)年10月6日
 “労働運動理論家 賀川豊彦論” 大杉栄稿 p8

沖野 岩三郎

0008 「雄弁」9巻12号 1918(大正7)年11月1日
 “日本基督教会の新人と其事業” 沖野岩三郎 p72-83

尾崎 士郎

0009 「批評」 批評社 主筆室伏高信 1919(大正8)年9月1日
 “現代流行児十人” 尾崎士郎 p52-54. “賀川豊彦氏が日本の労働運動に貢献した功績は甚

だ見
 が如
 く思
 です

図 書 (1910年代)

0001~0006

1910年代

村島 帰之

0001 『ドン底生活』村島帰之 文雅堂 1918(大正7)年1月1日
 “神戸の貧民窟” “貧民伝道家賀川豊彦氏” p72-109. <fn.> 賀川を世に出したのは、作家沖野岩三郎と大阪毎日記者村島帰之。だが村島はジャーナリストの道から同士としての道を歩む。

与謝野 晶子

0002 『涙の二等分 貧民窟詩集』賀川豊彦 福永書店 1919(大正8)年11月10日
 “序” 与謝野晶子 p1-25 “... 只今の日本の社会改造家を以て任ぜられる人達の中に缺けて居ると思ふ最も大切なものを、賀川さんが持って居られるのを知って、私は此事の嬉しさを述べずに居られないからです。忌憚なく云ふと、最近の社会問題に触れて指導者となり実行家となって居る人達には、概して藝術思想の教養が稀薄であるやうに見受けられます。言ひ換れば、その人達の熱情が根底を世界人類の愛に置いて居ると思はれる所がなく、その人達の言動が粗硬な野性に留まって、藝術思想かにじみ出る香味とデリカテとを缺いて居るやうに見受けられます...” p5-6 “賀川さんが現実に対する不満と、それを改造しようとするヒューマニテの精神とは、この詩集の随所に溢れて居ますが、私は其等のものを説教として出さずに藝術として出された賀川さんの素質と教養とを特になつかしく感じます。” p22 “... 若し我国にも人生派または人道主義の詩があるかと言ふなら、私は第一にこの『涙の二等分』を挙げようと思ひます。1919年11月 与謝野晶子” p25. <fn.> 賀川から思想的影響を受けた与謝野の賀川観。

米田 庄太郎

0003 『貧民心理の研究』賀川豊彦 警醒社書店 1915(大正4)年11月15日
 “序文” 米田庄太郎. <fn.> 米田は日本社会学者の草分け。京都大学講師としての扱いは、この著が問題にされた“部落問題”と無関係ではない。

1920年代

赤松 克麿

0004 『日本労働運動発達史』赤松克麿 文化学会出版部 1925(大正14)年3月20日 190p
 0005 『転換期の日本社会運動』赤松克麿 厚生閣 1926年(大正15)年2月1日
 “我国農民運動当面の目標-団結権と耕作権の確立-” p144-146

麻生 久

0006 『無産政党とは何ぞ? 誕生せる労働農民党』麻生久著 黒潮社 東京市 1926(大正15)年6月7日 4,9,454p
 (1) “政治研究会の成立と其発展” p111-130 “... 政治研究会は大正13年6月28日東京芝協調会館内に其創立大会をあげたのである... 創立大会は、... 賀川氏の指導... 賀川氏押され...” p114-115(2) “独立労働協会大正15年2月... 片山哲、吉野作造他...” p180-188(3) “(※第

加藤 一夫

0010 「科学
 “新

河畑 雄彦

0011 「雄弁
 “現
 総ま

堺 利彦

0012 「新社
 “友

鈴木 生

0013 「労働
 “東

土田 杏村

0014 「雄弁
 “現
 総ま

寺沢 一穴庵